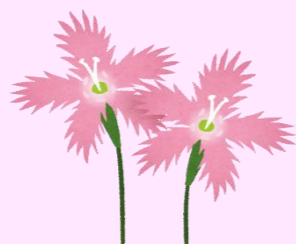


着任挨拶



看護部長 西島 陽子

平成29年4月に看護部長として、勤務することになりました西島陽子です。私は、看護学校を卒業し39年間急性期看護を経験し、最後10年間は管理業務と手術室の兼務で急性期看護の最たる場所でした。

宇部リハビリテーション病院は、慢性期医療・看護の提供をされています。

私がここに至るまで、人とのつながりを強く感じ、看護師を目指していなかった私が続けられたのは「つながり」「縁」があったからだと思います。患者・家族・職員すべて「人間」で、生きていく中で人のかかわりは続きます。そこが看護の原点でもあると感じています。

また、急性期であろうと慢性期であろうと「看護」は同じです。看護を行う中で、学生時代からスキンシップをとることが大事と指導され、ナイチンゲールは「手当て」、日赤名誉教授川嶋みどり先生はTE(テ)-ARTE(アーテ)を提言され、触れる・癒す・間をつなぐ手・・・素手でできる看護、副作用もなく、痛みもなく、安心感を与え気持ちよくでき回復につながると言われています。これからの地域包括ケアにはとても大事だと思っています。

来年には診療・介護報酬の同時改定があり、医療・看護の変化も速度を上げています。情報と知識の取得に努め、質の良い看護の提供をしていきたいと思っています。

現在、認定看護管理者サードレベル研修中で、まさに、2025年に向けての政策や保健社会福祉について、管理者としての視点での学びを行っています。自分自身の役割が遺憾なく発揮できるよう、この学びが役立てられるようにと思っています。

今年は、酉年で年女です。酉には「取り込む」という商売繁盛や運気を取り込む、成果が出ることや直観力・行動力があり、積極的に活動できると言われています。武士は備えるべき5つの徳(知・信・仁・勇・厳)を持っているそうです。洞察力に優れ、細かいところにはよく気が付き、客観的に物事を見て判断ができ、論理的と言われています。とても足元には及びませんが、近づきたいと思っています。

2025年におけるこれからの、宇部リハビリテーション病院での私の役割を認識し、地域医療に貢献していきたいと思っています。

最後に、私の好きなことにスキーがあります。冬になり、雪がちらちらし始めるとわくわくしてきます。週末にスキー場へと出かけるのが楽しみで、上達したくて、准指導員の資格を取得しました。子供たちやスキー初心者の方が滑ることが出来るように関わることがとても楽しいです。気分転換は、料理と草取りです。無心になり、そのことだけに集中することが大事だと感じています。

皆さんよろしくお願いいたします。



着任挨拶



医師 浦山 澄夫

平成29年4月17日より本院に勤務しております内科医の浦山澄夫です。私は宇部で生まれ、地元の高校、大学と進学し、昭和43年に山口大学医学部を卒業後、宇部で開業と生家から離れたことのない生粋の宇部人間です。

昭和52年に開業し、開業時は有床診療所で入院治療を行っていましたが、平成2年より入院を止め外来診療のみ行ってきました。

開業以来40年になり2年前より息子と一緒に二人体制で診療をしておりましたがこの度、縁あって当院へ勤務することになりました。私自身が高齢者になり長年、入院治療から遠ざかっておりましたので戸惑うことが多く足を引っ張ることも多々あるかと思いますが、諸先生方やスタッフの方々の助けでなんとか仕事がやっていけたら良いなと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。これまでは治療をお願いする立場でしたが、これからは逆の立場になり経験したことのない事ばかりでとまどっております。

ただ私は介護保険がスタートする時に医師会の担当理事をしており、市の職員と一緒に必死で立ち上げたことがありますのでこの経験がなんとか役立っております。個人的にも訪問看護ステーションや在宅介護支援センターを立ち上げたり、在宅医療をすこし行ってきたことがあり、多少は理解できますが実際の介護・医療の大変さを現実に見て驚愕することばかりで、スタッフの皆さんの献身的な仕事ぶりに感心しております。私個人がどれだけ役に立つか不安ですが、今後は更に高齢者の増加に伴い介護や高齢者医療が必要不可欠になってくるものと思われ、私なりに頑張っってやっていきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。



医師 原 順

平成29年5月よりお世話になっております。

耳鼻咽喉科 原 順と申します。

耳鼻咽喉科では、聴覚・味覚・嗅覚・平衡感覚など感覚器、呼吸・嚥下障害・音声言語などの機能、およびそれに必要な鼻腔・口腔・咽頭・喉頭の診察を行っております。

それらに関係する疾患は様々ですが、年齢面からみてみますと、小児期には中耳炎・副鼻腔炎が多くみられ、年齢を重ねていくと難聴・耳鳴り・眩暈・味覚障害・嚥下・誤嚥などの訴えが増加していく傾向があります。

人生の中のそれぞれのステージにおいて様々に機能が変化していく中で、各ステージに寄り添った診療を行っていきたく思っております。

あわせて、耳垢除去、鼻処置など、患者様に日常生活をよりよく送っていただけるような処置もこまめに行っていきたいと思っております。お役に立てることがありましたらお気軽にお申し付けください。

また、6月28日より嚥下外来が再開されることとなりました。こちらにも耳鼻咽喉科としてかかわらせていただきます。

皆様、どうぞよろしくお願い申し上げます。